

こどもたちと“あなた”をつなぐ

Yell

エール



MIYAGI CHILDREN'S HOSPITAL
宮城県立こども病院

News Letter

8.31発行 | 2026年夏 - 第10号 -



感覚統合療法室 1

今年もこども病院の夏祭りは大盛り上がりです！

こども病院の夏



何の景品が当たるかな？

花火の迫力に驚き & 興奮！



こどもたちはたくさんの催し物を楽しみました♪

※ 夏祭りは、仙台建設業青年会様をはじめ、多くの皆さまのご寄付に支えられています。

(6/23) Disneyストーリータイム 



ミヤギテレビのアナウンサーとさとう宗幸さんによるディズニー絵本の読み聞かせイベントが開催されました。ギター演奏に合わせた歌も楽しみ、こどもたちやご家族に笑顔が広がりました。

＜支援企業＞

ウォルト・ディズニー・ジャパン株式会社 様
日本テレビホールディングス株式会社 様
株式会社講談社 様

(7/22) ハートフルカート  (拓桃館2階病棟)



ドナルド・マクドナルド・ハウスせんだい様の支援活動「ハートフルカート」により、入院中のこどもたちやご家族に、玩具や日用品などが届けられました。

(7/24) ハッピードールプロジェクト 



NPO法人ワンダーアート様による支援活動「ハッピードールプロジェクト」で、自分だけの人形づくりを体験。こどもたちは創作する楽しさを感じながら、心あたたまるときの時間を過ごしました。

(8/19) ドローン体験イベント 



株式会社セレクトィホールディングス様（CUEグループ）によるトイドローンの操作体験イベントが開催され、こどもたちは実際にドローンを飛ばしながら、普段とは違う新しい体験を楽しみました。

様々な形でこどもたちに笑顔と元気をいただき、ありがとうございました

／みやちる／



ア



ト

キ

ャ

ラ

リ



「みやちるアートギャラリー」は、当院に入院しているこどもたちやボランティアさんの作品をご紹介しますコーナーです。

※ みやちるとは、当院の英語表記「ミヤギ チルドレンズ ホスピタル」の略称です。



拓桃館入院中の患者さんたちの作品です。

色紙やシールで色とりどりの飾りをつけて、自分だけのかわいらしい風鈴ができました！

拓桃館入院中の幼児さんの保育作品です。

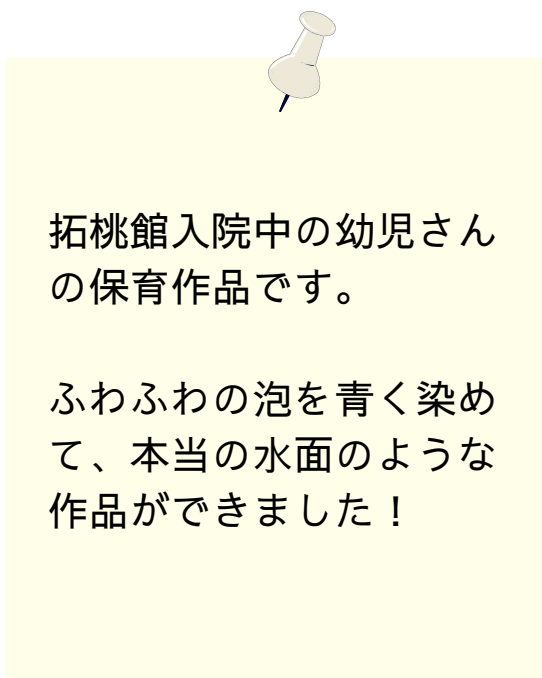
いろんな色の絵の具を使って、かたつむりの殻をカラフルに彩りました！





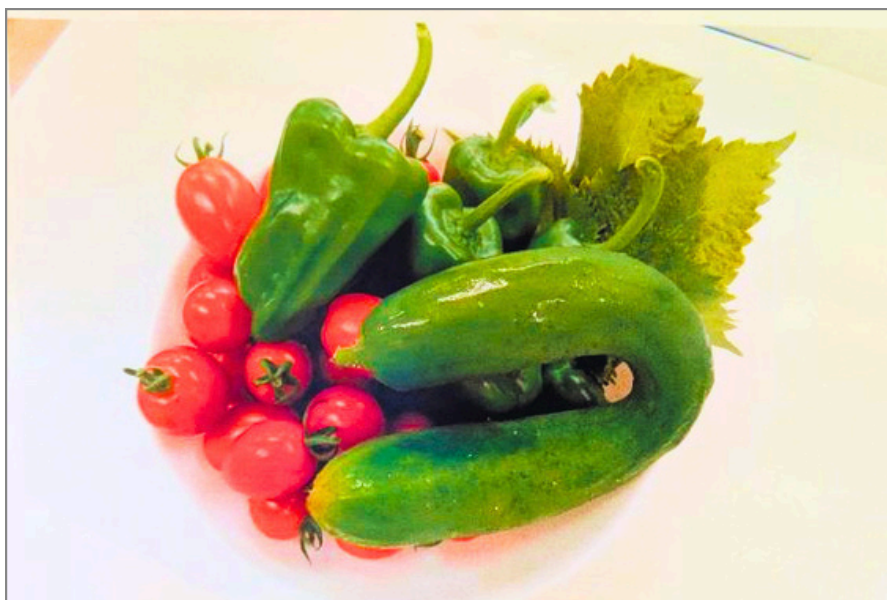
拓桃階 3階病棟の入院患者さんたちの作品です。

どの味にしようかな??
こどもたちが選んだ「おすすめの味」を紹介するオリジナルアイスが完成しました!



拓桃館入院中の幼児さんの保育作品です。

ふわふわの泡を青く染めて、本当の水面のような作品ができました!



拓桃館 3階病棟の入院患者さんたちが、当院の「わくわくばたけ」で育てた野菜です。

毎日のお世話の成果が、こんなに立派な野菜となって実りました!

ココに フォーカス！

- vol.9 -

こどもの リハビリ

おとなのリハビリと、**どこが違うの？**

一般的にリハビリといえば、病気やけがをした後の**機能訓練**を想像する方が多いと思います。

こどものリハビリは、遊びや様々な活動を通して、こどもたちの**発達や日常生活の自立**を支援します。将来**どんな生活を送るのか**まで見据え、**動く・遊ぶ・食べる・学ぶ**など、一人ひとりに合わせた支援を行います。また、ご家族の**不安や悩み**に寄り添い、家庭での関わり方や遊び方を一緒に考えます。

やることは“おとな”と似ているのかな？

例えば、**どのようなことをしているの？**



こどもたち一人ひとりの**身体の特徴や機能**に合わせて、動作のアドバイスや練習、補助具の製作などを行います。

例えば、座る・立つ・歩く等の**日常動作**が難しい場合には、正しい姿勢や必要な動作などを練習し、少しずつできることを増やしていきます。また、スプーンや箸などの**日用品**に、その子に必要な**補助機能**を加えて使いやすくすることで、「**自分でできる**」という**自信**につなげ、**自立**を支えます。

<リハビリに関わる職種>



理学療法 (PT)



作業療法 (OT)



言語聴覚療法 (ST)

1 こどもたちの「発達」を支えます！

呼吸や食べるなどの**生命維持機能**から、座る・立つ・歩くなどの**運動発達**、箸やペンなどの**道具**を使う活動、**コミュニケーション能力**などの発達段階を一人ひとり丁寧に評価し支援します。



2 こどもたちがリハビリに取り組めるように工夫しています！



こどもたちの「やってみたい！」
「できた！」を引き出す工夫をしています。
例えば、**玩具**や**遊びの要素**を取り入れたり、こどもたちが理解しやすいよう**イラスト**を活用したりしています。

3 こどもたちの日常生活や活動の環境を整えます！

こどもたちの身体に合わせた**車椅子**や**座位保持装置**の導入、日常生活に使用する道具の工夫や**自助具**（※）の選択、**学習**に取り組むための環境設定、**コミュニケーション手段**の提案などを行っています。

※自助具・・・できるだけ自分の力で行うために
工夫・改良された道具



こどものアレルギー



----- 食物アレルギー

食物アレルギーでは、原因となる食物を必要以上に除去せず、正確な診断に基づいて「食べられる範囲」を見極めることが大切です。当院では、食物経口負荷試験を年間1,000例以上実施し、安全に配慮しながら食べられる量を評価しています。必要に応じて管理栄養士による栄養指導や、少量から計画的に摂取量を増やす経口免疫療法も行っています。

----- 気管支喘息・アトピー性皮膚炎

気管支喘息やアトピー性皮膚炎は、症状が落ち着いている時にも継続した治療や適切なケアを行う必要があります。当院では、定期的な通院による薬の調整や吸入・スキンケアの指導に加え、必要に応じて治療入院や教育入院を行っています。重症・難治例には、生物学的製剤などを用いた専門的な治療にも対応しています。

----- アレルギー性鼻炎・結膜炎

アレルギー性鼻炎や結膜炎では、ダニや花粉などのアレルゲンを評価して、症状や生活環境に応じた治療を行います。当院では、生活指導や薬物療法に加え、スギ花粉やダニに対する舌下免疫療法を行っています。重症例では、生物学的製剤による治療にも対応しています。



※許可を得て写真を掲載しております。

スキンケアの様子

担当

アレルギー科

URL

<https://www.miyagi-children.or.jp/shinryo/allergy>

詳細はこちら



こどもの骨・関節



小児整形外科疾患

先天性内反足や先天性股関節脱臼、O脚・X脚など、こども特有の骨や関節の疾患を診療しています。

小児の骨格は成長とともに変化するため、まずはポンセッティ法やリーメンビュージェル法などの保存療法を基本とし、成長段階に応じて治療方針を検討します。手術が必要な場合も、その時期や方法を慎重に判断し、将来の成長を見据えた治療を行っています。

脚長不等・下肢変形・低身長

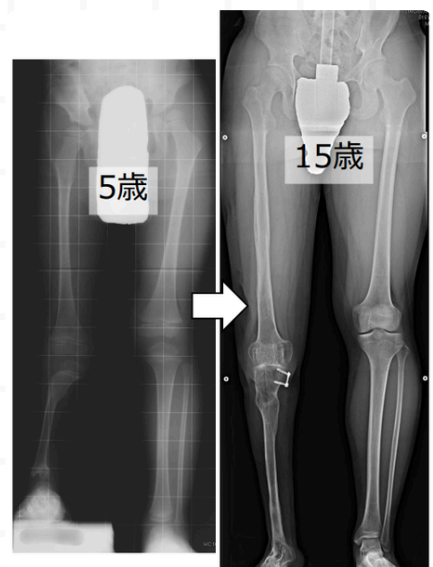
左右の脚の長さが異なる脚長不等や、下肢の変形、骨の成長に関わる疾患などに対して、創外固定やエイトプレートなどを用いた治療を行っています。

特に骨延長術では、骨の長さだけでなく、傾きやねじれも同時に矯正することができます。高度な技術を必要とする治療にも対応し、東北各地からの患者さんを受け入れています。

脳性麻痺などの小児神経疾患

脳性麻痺や二分脊椎、分娩麻痺など、運動機能に関わる様々な疾患を診療しています。

当院では、整形外科とリハビリテーション科が連携し、こどもの成長や身体の状態に合わせた治療を行っています。脳性麻痺に対するボツリヌス治療にも積極的に取り組み、手術以外の治療も含めて一人ひとりに適した方法を提案しています。



※許可を得て写真を掲載しております。

骨延長術などで脚長差を改善

担当

整形外科

URL

https://www.miyagi-children.or.jp/shinryo/orthopedic_surgery

詳細はこちら



旬の食材を
食べよう！

入院中のこどもたちに

季節の食材を 食べさせ隊



こどもたちに食べさせたい
“夏”の食材は何ですか？

今回は“スイカ”です！



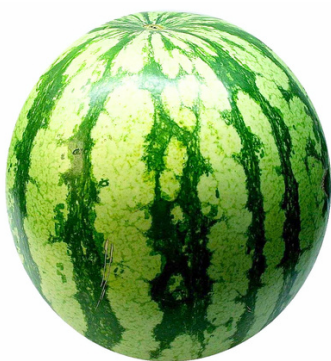
スイカ

スイカは高い気温と強い光を好み、日当たりの良い畑でよく育ちます。夏に旬を迎え、水分を多く含むため、たくさん汗をかく暑い夏にぴったりの食べ物です。6月頃から黄色い花を咲かせ、7～8月に収穫の時期を迎えます。

美味しいスイカは、しましまの模様がはっきりしていて、果肉の色が鮮やかです。種がしっかり黒いことも美味しさの目安とされています。また、たたいたときに「ボンボン」と低い音がすると、食べ頃と言われています。

参考：JAグループホームページ・宮城県ホームページ

こども病院では、食べやすくカットして
デザートとしてお出ししています！



「栄養管理部だより」から
一部抜粋して作成しました

あやし ー愛子だよりー

6/5

拓桃支援学校総合防災
訓練が行われました



災害発生時に拓桃支援学校から
当院に避難する訓練が行われま
した。参加したこどもたちは、
終始落ち着いた様子で、訓練に
臨んでいました。

7/8

第18回七夕の集いを
開催しました



日頃より地域医療の連携でご協
力いただいている関係機関の皆
さまをお招きして、講演会及び
交流会を開催し、相互のつな
がりをさらに深めました。

(現在の登録医療機関数:671機関)

9/1

入退院センターは
みんなのサポートセン
ターに変わります



9月1日より名称を変更し、こ
れまで以上に、こどもたちやご
家族の皆さまの様々な困りごと
に寄り添い、必要な支援につな
げていきます。

9/1

9月は小児がん啓発
月間です



当院の外来と本館2階病棟に、
小児がん啓発活動のシンボルで
ある「ゴールドリボン」を結ぶ
ツリーを設置し、小児がんへの
理解と支援を呼びかけます。

日用品やグッズが並ぶ可愛らしいカート
これは、いったい何に使うのでしょうか？



ちいさなギフト

ドナルド・マクドナルド・ハウスはハウス運営だけではなく、入院・通院している子どもたちのQOLを向上させ、病気の子どもたちに笑顔を届けることを目的に、様々なプロジェクトを展開しています。

その一つとして、入院中の子どもたちとそのご家族をサポートするため、日用品などの「ちいさなギフト」を病棟にて無償で配布する活動を始めました。

ハートフルカート

日用品やグッズを配布するためのカートは、心を込めた「ちいさなギフト」で子どもたちが笑顔になれるようにと、「ハートフルカート」とネーミングしました。

ハートフルカートには、主に入院中の子どもたちが必要とする「文房具」「おもちゃ」「日用品」「絵本」や、付き添い家族が必要とする化粧品などの「アメニティ」を載せて配布しています。

— ご家族から、こんな声が届きました —

ずっと病室のベッドで、退屈していた娘が大喜びでした。

同じ病室に入院しているお子さんとお友達になるきっかけになりました。

子どもの入院準備で精いっぱいだったので、親が使えるアメニティをいただいて本当に助かりました。

2026年は年間8回、ハートフルカートを実施する予定です。
今後も、お子さんにご家族の笑顔が溢れるよう継続していきます。



施設情報

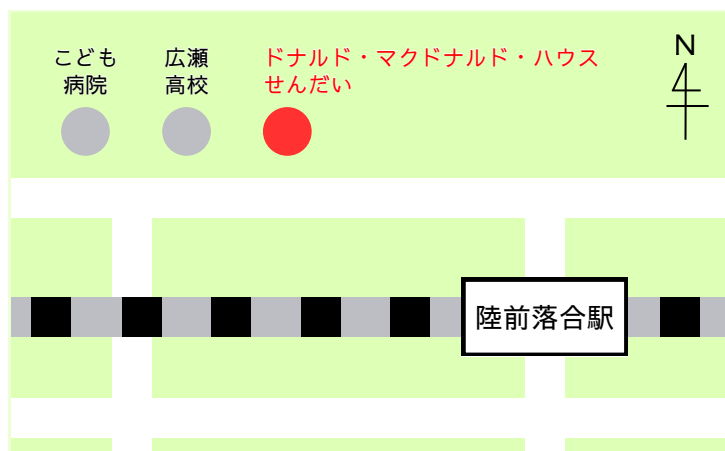
部屋数：16部屋

所在地：仙台市青葉区落合4-5-3

電話：022-391-1233

利用料：無料

(リネン使用料：220円/1人1日)



ドナルド・マクドナルド・ハウス
せんだい

Keeping families close™



詳細はこちら

Thank you for your donations!

貴重なご支援を誠にありがとうございました。



2026.6.18

株式会社 PRYホールディングス 様

東京都の企業様から当院にご寄付
いただきました。

「これからも、こども病院のこどもたちのために、支援を続けていきます。」（浅田社長様）



2026.8.7

仙台建設業青年会 様

こども病院夏祭りの開催にあたり
屋台景品のご寄贈や打ち上げ花火
へのご寄付、屋台運営や周辺警備
など、多大なご支援をいただきました。



2026.8.7

国際ソロプチミスト 仙台アイリス 様

開院時から継続してご支援いた
だいている団体様より、今年もご寄
付いただきました。

「こどもたちのために、大切に
活用ください。」（青木会長様）

Thank you for your donations!

エネックスジャパン 株式会社様

山形銀行の「くやまぎん」創立
130周年SDGs私募債」を活用し
当院にご寄付いただきました。

「社屋建替の節目にこどもたちに
役立つことができ、大変光栄に思
います。」（日下社長様）



2026.8.20

団体・法人様 ご芳名 (五十音順)

3つの団体・法人様からご寄付いただき、感謝状をお送りいたしました。

朝日エンドレス
有限会社様

エースユナイテッド
株式会社様

ライオンズクラブ
国際協会332-C地区様

個人の寄付者様

8名の皆さまからご寄付いただき、感謝状をお送りいたしました。



配信登録は
こちらから



Mail Magazine



Yell
エール

配信登録者数

2129人



フォロワー数

3032人

あなたの携帯やパソコンに
ニュースレターYellを定期的にお届けします！

—ご寄付のお願い—

皆さまからのご寄付は、こどもたちの療養環境の充実や
入院付添いご家族の食支援活動などに活用しております。

あたたかいご支援を心よりお願い申し上げます。

「クレジットカード（寄付額10万円以下）」

「銀行振込」などからご寄付いただけます！

（そのほかの方法を希望する場合は、広報室までご連絡ください。）

お申込みは
こちらから



編集後記

今号では、リハビリの工夫や野菜づくり、夏祭りの本格的な屋台・花火鑑賞など、院内の様々な場所で、こどもたちの「やってみたい」を支える取り組みに触れました。こどもたちの気持ちと、それを叶えようとするまわりの人の思いが、病院で過ごす毎日を彩っているのだと、改めて感じました。

編集・発行

宮城県立こども病院 広報室

TEL:0570-003-876（ナビダイヤル）

